



沖縄まちと子ども基金

設立記念フォーラム

沖縄の子どもへの貧困・孤立の解決のために
わたしたちができること

2012

12/8 (土)

15:00~18:00

那覇市職員厚生会館 ホール

プログラム

15:00 開始 ~ごあいさつ 基金紹介
公益財団法人みらいファンド沖縄 代表理事 小阪 亘

【基調講演】

「社会を変えるためにNPOはどう声をあげるべきか」
~NPO法改正活動の実践から~

特定非営利活動法人シーズ・市民活動を支える制度をつくる会
常務理事 関口 宏聡 氏

【事例報告】

「『沖縄の子どもの貧困と進路 一高校生1000人調査より一』
を通じて考えたこと」

しんぐるまざあず・ふぉーらむ沖縄 代表 秋吉 晴子 氏

***** 休 憩 *****

16:30 <グループトーク> 沖縄の子どもたちを支える協働のまちをめざして

[出演者]

- ・特定非営利活動法人シーズ・市民活動を支える制度をつくる会
常務理事 関口 宏聡 氏
- ・しんぐるまざあず・ふぉーらむ沖縄
代表 秋吉 晴子 氏
- ・株式会社沖縄ファミリーマート ブランディング推進室
室長 比嘉 智 氏
- ・特定非営利活動法人こども医療支援わらびの会
事務局長 儀間 小夜子 氏
- ・気候アクションセンター、沖縄県域市民活動支援基金設置検討委員会委員長
長田 英己 氏 《ファシリテーター》
- ・公益財団法人みらいファンド沖縄
代表理事 小阪 亘

質疑応答 まとめ

18:00 終了

※終了後、交流会を予定しております。

メッセージ

沖縄大学 加藤学長より、お祝いの言葉をいただきました。

「沖縄まちと子ども基金」の設立、おめでとうございます。

ご存じのように沖縄は子どもが生まれ育っていくために、きわめて恵まれた条件を備えています。豊かな自然環境と、人と人とのユッタリとした関係。そして、海と日常的につき合っていくために、自然との関わり方、自律性も養われていきます。しかし、沖縄は、薩摩の侵略以来、第二次世界大戦の悲惨な地上戦、日米政府による戦後の構造的差別による生活苦のため、大切な成長期を奪われてきました。子ども期の体験は、人間の価値観の形成上きわめて大切です。これらの機会を奪われ、沖縄の人々は生き抜いてきました。

今回の「沖縄まちと子ども基金」は、こうした現実を考えると、具体的な施策への支援と共に、その原因や背景、そして現在の沖縄の子どもたちにとって何が必要なかを明確にするための基礎的研究への支援も必要と思います。研究者のみならず、民間の活動グループによる協同的基礎研究は必ずや、沖縄の子ども対策の重要な方向性を示すものと思います。

この点もご検討頂き、県内外での行政、企業、市民へのファンド設立に何より期待をしています。共に力を合わせていきましょう。

沖縄大学 学長 加藤 彰彦

グループトーク 出演者プロフィール

関口 宏聡 (せきぐち・ひろあき) 氏

基調講演

特定非営利活動法人シーズ・市民活動を支える制度をつくる会 常務理事

1984年生まれ、千葉県出身。

2003年から環境NPOにて子ども自然体験活動などを行い、2009年 東京学芸大学教育学部環境教育専攻卒業。

2007年6月からシーズに勤務し、2010年の日本ファンドレイジング協会設立に尽力。

2011年の「新寄付税制・NPO法改正」実現では、市民側の中心的役割を果たし、現在この活用促進のため、NPO・市民への普及、議員・行政へのロビー活動に奮闘中。全国で寄付税制・改正NPO法と認定NPOの価値・有用性について登壇。のべ1200人以上を指導してきた。

秋吉 晴子 (あきよし・はるこ) 氏

事例報告

しんぐるまざあず・ふぉーらむ沖縄 代表

シングルマザーが子どもといっしょにイキイキ楽しく生きられるように、情報提供や交流の場をつくるほか、市町村に対し保育料の寡婦みなし控除の要請活動をするなど、調査・提言など行政にはたらきかけている。

最近の活動では、県内議員との寡婦控除勉強会、「シングルマザーによるシングルマザーのためのセミナー」などがある。2012年9月30日には、シンポジウム「沖縄の子どもの貧困と進路—高校生1000人調査より—」の開催があった。

比嘉 智 (ひが・さとし) 氏

株式会社沖縄ファミリーマート ブランディング推進室 室長

昭和41年生まれ、うるま市出身。

1994年10月に株式会社沖縄ファミリーマート入社。

商品部に14年間在籍。現在は、ブランディング推進室長。県内大学生が商品マーケティングを学ぶインターンシップ「学P」や、TVCMなど、マーケティングやCSR活動、宣伝・広報などの業務を推進する。

儀間 小夜子 (ぎま・さよこ) 氏

NPO法人こども医療支援わらびの会 事務局長
全国心臓病の子どもを守る会 副支部長

1996年から障がい児者団体や地域とともに、県立こども病院設立運動に関わり、2006年その実現を果たす。

2005年 NPO法人こども医療支援わらびの会が設立され、理事兼事務局長として奮闘。わらびの会では、県立南部医療センター・こども医療センター近くにある「ファミリーハウス がじゅまるの家」の受託運営をしている。病児のきょうだいや母親（妊婦含む）の精神的不安を少しでも軽くしたいとの思いできょうだい児預かり保育支援事業も行っている。

長田 英己 (おさだ・ひでみ) 氏 ※ファシリテーター

気候アクションセンターおきなわ
沖縄県域市民活動支援基金設置検討委員会委員長

気候アクションセンターおきなわでは、地域での気候変動対策のあり方などの支援を行っている。また、県内の干潟の調査研究に携わり、自身も海アチャーとして様々の干潟を歩いている。

このほか、子どもたちに環境の大切さを伝えるため、学校、地域、NPO等と連携し環境教育を推進するために企画やコーディネートを行っている。

小阪 亘 (こさか・わたる)

公益財団法人みらいファンド沖縄 代表理事

2005年に参加型まちづくりに取り組む『NPO法人まちなか研究所わくわく』を有志とともに設立。那覇市NPO活動支援センターで6年間、沖縄のNPO、市民活動の組織運営の支援や助成事業の運営を担当し、5年間センター長として従事。2010年4月にみらいファンド沖縄を設立し、市民の公益活動に対する共感を育て、公益活動に取り組む市民が活動しやすい社会基盤づくりに取り組む。沖縄の公益活動情報を発信する公益ポータルサイトの運営と公益活動を支えたい企業、団体、個人などの意思ある資源（お金、物、人など）を結びつける事業を行う。

【基調講演】

特定非営利活動法人シーズ・市民活動を支える制度をつくる会
常務理事 **関口 宏聡** 氏

**「社会を変えるためにNPOはどう声をあげるべきか」
～NPO法改正活動の実践から～**

※発表者へご質問やご意見がありましたら、1件ずつ付箋紙へ
ご記入ください。休憩時に回収させていただきます。

memo

.....
.....
.....
.....
.....

【事例報告】

しんぐるまざあず・ふおーらむ沖縄

代表 **秋吉 晴子** 氏

「『**沖縄の子どもの貧困と進路** ー高校生1000人調査よりー』
を通じて考えたこと」

※発表者へご質問やご意見がありましたら、1件ずつ付箋紙へ
ご記入ください。休憩時に回収させていただきます。

memo

.....
.....
.....
.....
.....

沖縄まちと子ども基金 について

沖縄の子どもたちをとりまくリスク

多くの統計的数値が、沖縄では子どもが貧困や孤立のリスクに晒されていることを予測させます。事実、進学を断念する子、虐待を受ける子、衣食住さえ保障されない状況にある子などが、ここ沖縄に多くいます。

生活保護受給世帯数

19,088 世帯

(2010年3月時点)

100世帯あたり35世帯で
比率では全国5位

学校給食費滞納率

6.57%

(1位、2005)

出生数における
10代出産の割合

2.6%

(2010)

全国平均の倍

一人あたり県民所得

全国平均の **73%**

(46位、2009)

離婚件数

3580 件

(1位、2010)

母子・父子家庭率

6.16%

(1位、2005)

就学援助制度の
認定を受けた児童・生徒

26,896 人

全児童生徒の **18.31%**
(2010)

沖縄の子どもたちを守ることは、沖縄の未来を守ることです。

「沖縄まちと子ども基金」は、NPOが実施する事業・調査へ助成を行う計画です。

事業で培った支援のノウハウを、他の団体や地域へ知らせること。事業を通じて

知った現実をきちんとまとめ、行政や社会へ知らせることで制度や環境を変える

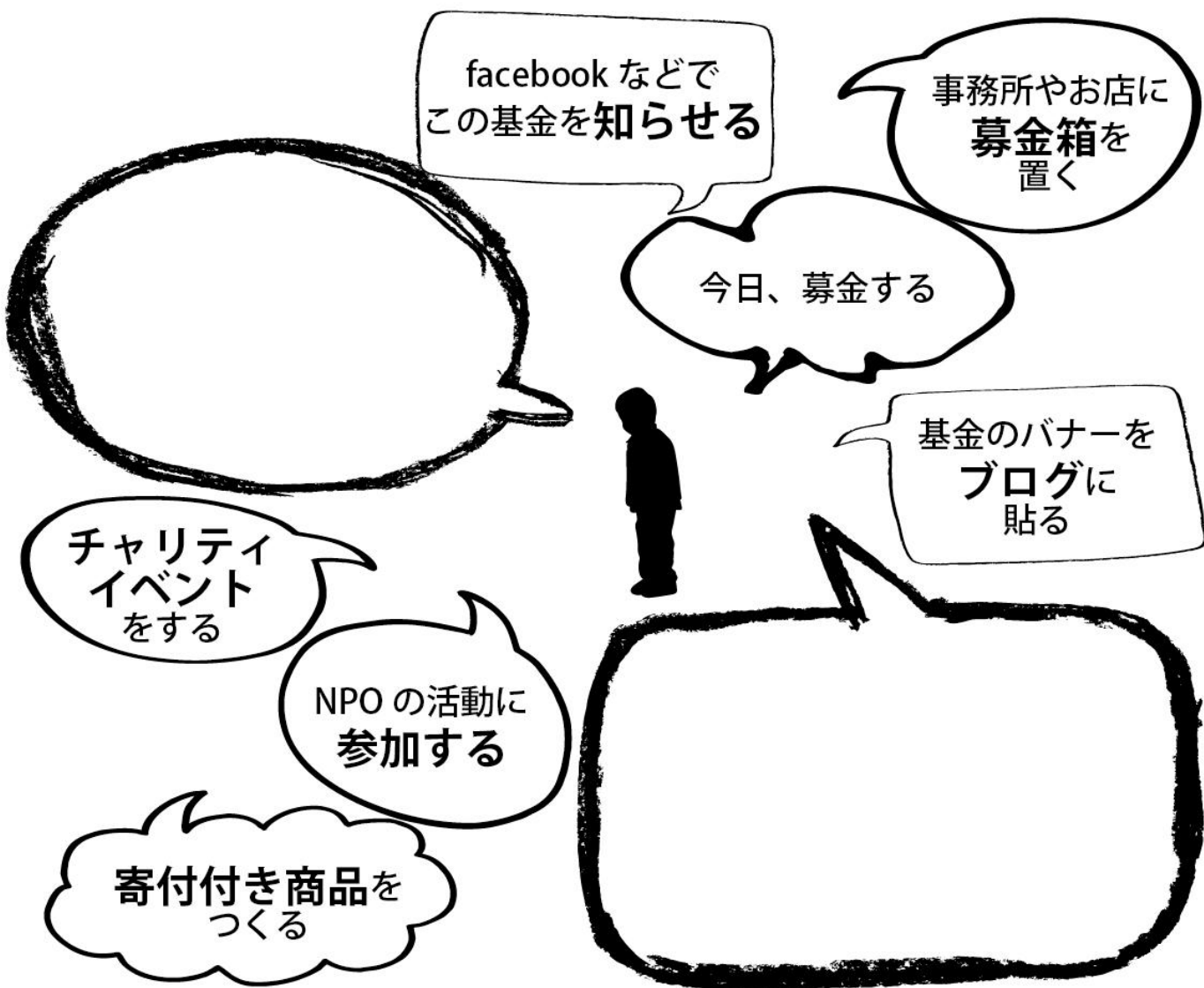
こと。これらのような、子どもたちを地域（まち）が支えていける環境を育む活動に、この基金からの助成金を使っていただきたいと思います。

沖縄まちと子ども基金 と一緒に

子どもの貧困・孤立の解決のために、できることがたくさんあります

基金と一緒にできること

「沖縄まちと子ども基金」は、子どもたちを支えたいと思う人みんなに使っていただきたい「しくみ」です。



チラシでは、寄付の口座・方法のご案内をしています

本日の配付資料と一緒に、基金のチラシが入っています。

基金への寄付をお考えいただける方は、どうぞご覧ください。